

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所より、地域との連携の中で、心から助け合い、共に喜びあえることを理念としてきました。管理者と職員は理念を理解し、日々の生活支援に取り組み、理念の実現に向けて努力している。	ホーム独自に作り上げた理念がホールに掲示してある。意識づけのために職員は個人ロッカーに張ったり、スタッフ会議や申し送りの対話の中で確認しあっている。開設から7年を経て職員にも浸透しており、日常のサービス提供時に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の一部をオープンガーデンとして開放したり、サン祭りや、収穫感謝祭で多くの地域の人々との交流を持つ取組をしている。	地域の住民が大勢参加するホームの夏祭りや収穫感謝祭は地域に定着し、ホームそのものの理解にもつながっている。近所の人々より野菜や果物の差し入れもある。「認知症100万人キャラバン」キャラバンメイトとして地域に働きかけを行っている。手入れの行き届いた洋風の庭は季節の花々が咲き誇り、オープンガーデンとして近隣の人々の目を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の集まりに出向き、高齢者の生活や介護の相談にのっている。又、キャラバンメイト養成講座に参加して、認知症サポーター講座をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者には、施設の運営理念の理解と、ボランティア活動の参加からも積極的に意見をいただいている。そこでの意見を受け止め、また励みに、サービスの向上につなげている。	2ヶ月ごとに一回、定期的開催されている。隣接した小規模多機能型事業所と相談した課題を含め、ホームで用意した議題に沿って報告したり、内容によってはメンバーから意見、要望などをお聞きし検討している。地区老人会から委員として加わっていただくなどメンバー構成にも工夫がみられる。会議で得た情報や意見を取り入れ、サービスの向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、事業所の実情・ケアサービスの様子を伝えたり、行事に参加頂く他、重度化、ターミナルケアへの取り組み課題の解決に向けて連携を図りながら協力関係を築いている。	市とは運営推進会議を通じて協働している。開設から7年を経て、当初からの入居者の高齢化に伴うターミナルケアについての相談や認定審査のアドバイスをいただくなど、担当部署との連携が円滑に進められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は全員が周知している。日中、危険が生じる心配がある時以外鍵をかけた工夫をしながら、身体拘束をしないケアにつなげている。	基本的には夜間以外は鍵をかけていない。職員は身体拘束をしないケアについて十分学習しており、見守りや声掛けなどの対応により開設当初から比べると鍵をかけないことが普通となっている。ベッドから落ちて負傷した入居者のその後の安全を考え、行動を抑制することのないよう時間帯により工夫をこらしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権を大切にすることを理念として取り組んでいる。特に、心理的虐待に当たる、子供扱いするような言葉掛けには、注意していくようにしている。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者があることで、常に学ぶ機会はあるが、制度の活用が出来るまでには至っておらず更に学習が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、重要事項説明書、運営規定を提示してサービスの説明に当たっている。特に介護サービスの利用が初めての方には配慮している。書面の字体も見やすくしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時出される意見や要望は、しっかりと受け止めている。職員からも積極的に話題を向け、利用者、家族の思いを汲み取り、検討し、介護計画や行事に生かし、改善に努めている。	家族会や来訪時に家族の要望などを気軽に話していただけるよう声掛けをしている。入居者と職員が1対1で話せる受診付添い時などに意見や思いをお聞きすることもある。利用者本位の視点から、本人の意見や家族の意向を受け入れたり、日頃の行動の中から気持ちを汲み取り介護計画にも反映させ、支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長、管理者は、職員と話す機会を常に持ちながら、多くのことは、会議等で話し合った意見を元に決めている。	理事長や管理者は日常の業務の中で仕事上の相談などに気軽に応じており、職員とのコミュニケーションは取れている。スタッフ会議が月1回開かれ意見を交換している。誕生会の運営方法について課題を整理し改善するなど職員の発言に耳を傾け、入居者の日常生活がより良い方向へと進むよう気づきやアイデアを前向きに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は毎日現場に来ており、利用者や職員と過ごし、職員の勤務や悩みを把握している。職場環境、条件の整備は積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加出来る研修を紹介し、希望する職員には、公平に参加出来るようにすすめている。研修の内容は、スタッフ会議に報告し、全員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣のグループホーム管理者と交流の機会を持ち、意見交換をしている。職員同志の相互訪問交流もある。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問したり、体験で来所頂き、顔なじみの関係づくりに心がけたり、話を聴く中で、本人の考えや思いを知り、受け入れる体制を整え、安心して利用頂けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族の状況、思いをしっかりと受け止め、ホームの出来ること、家族に協力いただきたいことを明らかにして、力を合わせての関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい場所にも心がけながら本人や家族の意見や要望を受け止めるようにしている。話し合いをする中で、ホームで出来ること、出来ないことを確認しながら、解決に向けた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は共に過ごした歳月の中で。「共に過ごし、学び、支えあう」関係が築かれ、一緒に過ごす時間を楽しみ、又それが大切なことを感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族が心を寄せ合いお互いに支え合うことがどんなに大切かを理解している。職員は、本人、家族のそれぞれの思いを受け止め、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂き、馴染みの美容院やお墓参りに出かける等、関係が途切れないように支援に努めている。	家族の協力により馴染みの場所やお墓参りに出かけている。近くのふれあいコンサートに出かけ近所の方とお茶を一緒に楽しむこともある。収穫感謝祭や避難訓練に参加した地域のボランティアの方とも顔なじみになり、ホームでのお茶の時間にお呼びし更に交流が深まるように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係の把握に努めている。気持ち良く関わり合い、支え合えるように、折々の場面において、工夫し配慮している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族と連絡を取り合い、必要に応じて支援に努めている。又、要望に応じて再会の機会を持つ等支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はセンター方式シートの活用、チームカンファレンスで検討しながら、日々の関わりの中で得られた本人の思いや暮らし方の希望、意向の実現に向けた支援に努めている。	受診付添いなどで入居者と職員が1対1で話す時に洩らす思いや意向を聞いたり、日常の暮らしの中で気づいたことなどを入居前の生活歴などと照らし合わせ、希望に沿った支援となるよう検討している。複数の職員で構成するチームにより意見交換しており、こまめに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の歴史やサービス利用経過について出来るだけ情報を頂くように努めている。日々の暮らしの中で、本人から教えていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがそれぞれの生活リズムを持ち、生活されていることを理解している。センター方式シートを活用し、出来ることの継続に努め、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はグループカンファ、ケア会議、家族の意見を交えながら、本人の思いや意向に添えるように取り組んでいる。	入居者の状態にかかわらず3ヶ月、6ヶ月で介護計画の見直しを必ず行っている。本人、家族の意向を聞きながら職員も3グループに分かれカンファレンスを行っており、場合によっては職員全員からの意見を集約し分析している。毎月のケア会議でも各入居者の計画を順次検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動、言葉を受け止めた職員のケアの実践や気づきが分かりやすく記録に残るように記録用紙を検討し、更に介護計画の見直しに活かせるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況や要望により、通院、買い物、お墓参りの付き添いや認定申請書の提出代行等柔軟に対応している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や様々なボランティアの方、ご近所の方の力を借りて、豊かで楽しみのある暮らしが支援されている。又、運営推進会議の参加を機会に老人会との関わりも出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人、家族の希望を確認して決めている。かかりつけ医との関係が継続できるように、本人、家族の状況と意向に添い、医療支援している。	馴染みのかかりつけ医を継続し家族とともに受診に行く入居者もいる。協力医療機関の医師には緊急の際の往診やインフルエンザの予防注射、看取りにも協力的に関わって頂いている。管理者は看護師を兼務しており日常の健康管理に留意し、体調の変化にも即対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援をしている。看護師が不在の時、体調の変化に気づいた時はただちに看護師に報告し、対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の指示、家族の意向に出来るだけ添い支援している。利用者の状況に応じては、早期退院が出来るように、地域連携室と連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、状況に添って家族、主治医と連携を図りながら取り組んでいる。家族の支援者の意思統一も重要と考え、協力体制を整え、全員が気持ちを一つにして取り組めるように努力している。	開設以来4人の方の看取りを行った。事業所としてのその時々の方の力量を見極め、可能な限りの対応をしている。看取りを希望する本人や家族の思いに沿って支援をしていくように取り組んでいる。家族や医師、職員の全員で方針を共有し、過去の看取りの過程で色々な学習を行ったことが確かな経験となってその後活かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当で蘇生術の研修を実施したり、誤嚥等に対応した施設内研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を消防署の協力も頂き行っている。夜間の災害を想定し、夜勤者による初期活動訓練、地域の方に利用者の誘導を行って頂いた。又、避難経路、消火器設置場所の確認は、日々行っている。	消防署の協力のもと隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に防災訓練を定期的に行っている。今年度は夜間を想定し、課題として浮かび上がった緊急連絡網の改善などにつなげることができた。地域の方達も利用者の誘導に参加していただいている。水、缶詰、穀類等の備蓄もされている。	

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時、目立たず、さりげない言葉掛けで、対応に心がけている。職員は尊厳、権利の遵守を常に念頭におき、お互いに注意しあいながら業務についている。	一人ひとりの人格を尊重し、呼びかけや言葉遣いに気をつけ支援している。スタッフ会議などで言動について職員同士で注意し合うこともある。職員の人権意識も高く、人生の先輩に敬意をもって接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、言葉以外の反応からも本人の希望や好みの把握に努め、自己決定の場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしに基本的な流れはあるが、日々一人ひとりのペースを見守り、要望や状況に合わせての対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、本人の好みや意向で決めており、場合によっては、アドバイスしたり、見守っている。家族の意向で馴染みの美容室に出掛けたり、ボランティア美容師をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳等取組み、おはぎ作りを得意とする利用者と職員は、食卓を囲んでいる。	毎日ではないがお茶を入れたり、テーブルを拭いたり一人ひとりの出来る範囲で調理や準備に参加している。高齢化が進んでミキサー食の入居者もいるが、バランスの取れた内容で、おやつなども手作りのものに人気がある。時間をかけ全員で食事を楽しんでおり、美味しいと完食する方が殆どであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や食事摂取量を確認している。利用者の状況、希望に合わせて、食事の形態を変え、水分摂取の支援に当たっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて声かけしたり出来ない場合は介助しながら食後の口腔ケアが出来、口臭の改善も出来ている。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを確認する他、落ち着かない仕草等、利用者の様子を見逃さないことで、タイミングの良いケアが出来るように心がけている。入所前の生活習慣に合わせてポータブルトイレを使う等、一人ひとりの排泄環境を整えるように努めている。	トイレでの排泄を容易にするため、水分補給や乳製品の摂取、ホーム内も含め歩くことに心がけている。様子を見ながら見計らってトイレ誘導の言葉がけを行っている。入居前にポータブルトイレで排泄してきた方は習慣になっているため使用している。一人ひとりに沿って見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取は、利用者の状況に合わせて、起床時より一日を通して配慮し、心がけている。おやつに乳製品、バナナ等取り入れる等飲食物の工夫により、便秘の改善につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしている。その日の希望を確認して実施している。着衣の順番等、分からない利用者には、着る順番に衣類を置く等配慮している。	全員お風呂好きで入浴を楽しんでいる。希望でいつでも入浴出来る。衣類の着脱についても介助が必要な入居者には細かな配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休憩を中心に支援しているが、利用者の希望や状況により、ゆっくりと休憩出来るように心がけている。又、寝具の清潔には注意をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の処方箋は、ファイルにまとめ、いつでも確認できるようになっている。服用時、利用者の状況に合わせての支援をし、きちんと服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、新聞たたみ、日めくり、カーテン開け等、出来る事を支援している。又、花を摘んで飾ったり、畑で収穫した枝豆を取る機会を持った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課としている利用者がいる。お楽しみ外出を計画し、身体状況に合わせた外出の支援をしている。家族の協力もあり、積極的に出ている。	近所の畑や庭の花を眺めながらの散歩を日課とする入居者や家族の協力での外出など、個々の状態や希望に合わせて外出している。紅葉狩りなどのドライブで遠出をすることもあ	

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を管理している利用者はいないが、お金を持つことの大切さを理解し、希望する買い物をし、お金を支払う機会を持つことが出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた孫から届いたハガキを嬉しそうに受け取っている様子等を家族に伝えたり、なかなか面会に出来ない家人には協力をお願いすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールからは、四季を彩る花々やりんご畑が見え、会話が増え、外への意欲にもつながっている。ホール内の季節に合わせた飾りで楽しんでもらえている。	季節の花が飾られた食堂やホールなどの共有空間は吹き抜けで明るく落ち着ける。窓越しに赤い実をつけたりんご畑を見ながら、テレビを見たり会話を楽しんでいる。殆どの入居者が終日このホールで自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキで猫を相手にくつろいだり、ホールで独りパズルを楽しんだり、思い思いに過ごす居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力があり、思い出の写真等が置かれている。好きな動物等のポスターやぬいぐるみを置く配慮をしている。	居室にはテレビやベッドが持ち込まれ、各入居者の好みの物が置かれている。家族の写真や自分で書いた書などが飾られ、本人の入居前の生活に配慮された環境づくりがされている。書の上手な入居者から練習している書を見せて頂くことが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、安全で使いやすいように、トイレ内の手すりの増設、畳からフローリングに変えている。		